

| | |
|----|------------------------------|
| 主題 | レクリエーションの再構築による意欲と信頼関係の更なる向上 |
| 副題 | 素敵なお顔をありがとう |

| | | | |
|----------|--|------|------|
| レクリエーション | | 研究期間 | 12ヶ月 |
|----------|--|------|------|

| | | | |
|--------------------------------------|------------------------------------|--|--|
| 事業所 | 社会福祉法人福陽会 特別養護老人ホーム 第2サンシャインビル | | |
| 発表者：青山 和美・池田 広宣 (あおやまかすみ・いけだひろのり) | アドバイザー：島田・井上・福島 (しまだ・いのうえ・ふくしま) | | |
| 共同研究者：加藤幸子 田中研二 井上賢一 夏目真由美 原島新 酒井みどり | | | |

| | | | |
|-----|--------------|--------|----------------------------|
| 電話 | 042-553-3701 | E-mail | sasaki@fukuyokai.or.jp |
| FAX | 042-553-3715 | URL | http://www.fukuyokai.or.jp |

| | |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 今回発表の事業所やサービスの紹介 | 横田基地と七夕祭りで有名な福生市に開設し18年目となりました。特養利用者154名、短期入所16名と合わせデイサービス等も併設している大きな施設です。理事長・統括施設長の掲げる「人がその人らしく生活できる環境作り」をモットーに、利用者の皆さんと職員の笑い声が絶えない明るく活気のある施設です。特養利用者の平均年齢が86.3歳、平均介護度が4.1となっています。 |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

《1. 研究前の状況と課題》

当施設では法人理念に基づき施設行事（観桜会、納涼盆踊り、文化祭）を実施。レクリエーション委員が企画する季節ごとの外出レク、月2回のショッピングのほか、各フロアレク委員主催のフロアレクを実施しています。平成24年度末のレク委員会においてさらなる利用者様の生活の充実を中心に話し合いを重ねた結果、下記のような課題が明確になった。

解決すべき問題点

- 1 日常業務においては職員の意識が業務中心となってしまう、利用者様とのコミュニケーションやレクの為の時間が作れない傾向にある。そのため、利用者様にとって刺激が少なく変化の少ない環境になってしまうことがある。
- 2 レク活動が委員まかせになり、他職員と温度差がある。またレクの内容もマンネリ化しているのではないかとの意見もあった。

[課題]

- ① 業務と利用者様の生活感の両立
- ② レクリエーションの再構築

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

それぞれの課題について、下記の通りの成果を期待する。

- ① 業務と利用者様の生活感の両立
→笑顔がもたらす効果を検討し実践する事により明るい生活環境や認知症進行予防、利用者様の健康面への効果、そして信頼関係の向上が期待できる。
- ② レクリエーションの再構築
→フロアレク委員以外の職員、パート職員による企画により多彩なフロアレクの実施。その事によって各職員のレクへの意欲向上。利用者様の声を傾聴しニーズを理解する事で意思疎通の向上。さらに、利用者様それぞれが意欲的になる効果が期待できる。

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ① 業務と利用者様の生活感の両立
→笑顔がもたらす身体的影響について研修を行った。利用者様の認知症ケア及び健康面の維持に繋がることを再確認。
- ② レクの再構築
→各職員、パート職員をグループ分けし企画
→計画書にてシフト作成時に人数調整
→レクの多様化
 - ・寝たきりの利用者様も参加できるレクの実施。
 - ・簡単な料理、物作りを企画し、利用者様と一緒にを行う。→各フロアで行うレクの情報を共有し交流を図る。

《4. 取り組みの結果と考察》

- ① 業務と利用者様の生活感の両立
 - ・職員が笑顔を意識する事により、利用者様から気軽に話やすい雰囲気となった。
 - ・会話の中から今まで以上に利用者様の気持ちを引き出すと言う事を体感し、その結果により利用者様との信頼関係がより深まったと感じた職員もいた。
 - ・「職員の笑顔」が利用者様の生活を変えただけではなく「利用者様の笑顔」によって職員は労われる事や励まされモチベーションが上がると相乗効果に繋がった。
 - ・来園された御家族様からも、利用者様がお家族様に見せる笑顔とフロアで見せる笑顔が違くと寄せられた声に、その利用者様にとって楽しめる生活感のある環境になってきていることを手ごたえとして感じ、一つの結果として受け止めている。
- ② レクの再構築
 - ・グループごとの企画を実施したことにより、それぞれに意欲的な発言や提案が聞かれ、レクへの意欲向上に繋がる効果が見られたほか、業務の見直しやシフトの工夫などにも良い影響が見られた。
 - ・グループごとの企画は、レクメニューの多様化（多彩化）にもつながった。ADLの

高い人を中心とした、簡単な料理作り・物づくり、寝たきりの人を対象としたアロマセラピーなど、今までとは視点を変えたメニューが増えた。

- ・利用者様からも、「楽しかった。」「今度はいつやるの?」といった言葉のほか、「こんなことをしたい。」といった提案が出されることもあった。
- ・これらの多彩なメニューは、各フロア間でお互いに情報共有を行い、他フロアの利用者様が参加するなどの交流にもつながった。

《5. まとめ、結論》

当施設の理念をより一層に高めるための今回の取り組みは、刺激や変化の少ない環境を、レクの再構築により、楽しむこと・意欲的になるなど生活感のあふれる環境へと変化した。

また、職員が笑顔でいることにより利用者様が笑顔で気軽に声をかけて頂くようになった。その笑顔に、介護職としての達成感・充実感を得られることができた。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究発表に当たり、使用されている写真等は、ご本人（ご家族）に書面及び口頭にて確認した上で使用しています。

《8. 提案と発信》

レクという一つの手段を通して、利用者様の笑顔を引き出し、生活環境を変えることができると実感した。また利用者様の笑顔によって職員の意欲・やりがいの向上も期待できると思います。

【メモ欄】